

「東北ITクラスター・イニシアティブ (TIC)の活動と今後の展開」

我々はなぜTICを創設しなければならなかったか

財団法人仙台応用情報学研究振興財団
理事長 野口 正一

2004年における東北地方のIT産業の状況



東北地域IT産業活性化のために

国、県、市におけるIT産業育成の多くのプロジェクトが存在

そのすべてが十分に機能していない

民より発想し、実行する組織を
構築することが緊急の課題

2



✓下請け依存

中国、インド等への海外シフトにさらされやすい下請型の事業形態が多い
宮城県は売上高の33%が同業者取引

✓事業規模が小規模

販売/マーケティング/商品化プロセス/研究投資にまで手が回らない
IPO等による直接金融市場からの資金調達ができない(南3県の上場IT企業0社)

✓コアコンピタンスの欠如

下請型であるがゆえに、戦略的な特定分野・技術への集中ができない

✓人材の流出

高度な技術の取得・発揮の場が少ないため、優秀なIT技術者にとって就業の魅力が乏しい

Copyright ©東北ITクラスター・イニシアティブ,2005.All rights reserved.

3

TICの設立:2005年6月



■ 設立の趣旨

- ✓ 東北IT産業の構造的弱点克服
- ✓ 東北(当初南3県)IT企業の連携力強化
- ✓ 実利ある産官学連携の促進

■ 目標 ~TICの活動の波及効果として2010年までに~

- ✓ 南東北3県IT産業の売上高(1,650億) **3,000億円**
- ✓ 南東北3県IT産業に関わる新規株式公開企業 **7社**
- ✓ 南東北3県IT産業に関わる売上高10億円超企業 **40社増**

※算出根拠

既存事業者の売上高増分:年8%成長 1,650億円 →2,500億円
新規ベンチャー企業の増分 0億円 → 500億円

Copyright ©東北ITクラスターイニシアティブ,2005.All rights reserved.

4



正会員 44社

賛助会員 10社

特別会員 10機関 ※会費を納めることを要しない。

東北経済産業局
東北総合通信局
宮城県
山形県
宮城県情報サービス産業協会
山形県情報産業協会
(財)仙台応用情報学研振興財団
東北IT産業推進機構
(社)東北経済連合会
(株)仙台ソフトウェアセンター

2006/01/10現在

Copyright ©東北ITクラスターイニシアティブ,2005.All rights reserved.

5

TICの新しいコンセプト

- 参加企業の全体を、一つの大きい仮想的IT企業と位置づける
- TIC全体としてのビジネス戦略とその実行ができれば全国区のIT企業として戦える
- 産学官連携の協力を推進
- 2010年までに目標を達成する

6

基本戦略を三つのフェーズで実行

第1フェーズ

- (1) TIC各企業間での十分な情報交換とコミュニケーション(徹底したプレゼンテーション)
- (2) トップレベルマネージャーの人材育成
- (3) 各企業間での情報共有
2005年4月～2006年2月までの説明会・研究会の回数: 34回

7

第2フェーズ ビジネス開発プロジェクト

(1) TIC主催のフォーラムを通してのマーケティング

(2) 東北LAMP開発センターの設立と活動

(a) LAMPの基盤技術の教育と技術資格の設定

(b) LAMPベースのマーケティング

・いくつかの事例

(3) TIC企業間での共同開発と新しいプロダクトの創出

・いくつかの事例

8

第3フェーズ:本格的な活動

(1) 高度人材育成

(2) 広域マーケティングの展開

(3) 東北IT企業の売上高の増加

(4) 企業のIPOへ向けてのサポート

1社IPOに成功

9

総 括

- 第1フェーズ、第2フェーズは大略計画通りに達成
- 第3フェーズは半ばにして本プロジェクトは終了
- しかし第3フェーズの環境は現在も健在
- 国からの支援があればすぐにTICは活動可能

10

本プロジェクトを通して明確化された問題点

(1) 決定的に資金が不足

組合費だけでは機能しない

(2) トップレベルのマネージャーの不足

(a) グローバルマーケティング

(b) 各企業のトップレベルの技術の融合

(c) ニーズに対応する新技術開発

少なくとも年間1000万～2000万あれば大きく飛躍できた

11